図170　石動遺跡　建物は新潟北高等学校校舎

図169　遺跡の位置
５万分１地形図「新潟」

石動遺跡　東区本所・石動・本所二丁目

亀田郷のほぼ中央に連なる石山砂丘の、東端部の小砂丘に立地する、弥生時代中期～後期、古墳時代前期、平安時代、中世の遺跡である。遺跡から約六〇〇メートル東は、阿賀野川の堤防である。遺跡の周辺は市街地化が進んでいるが、昭和五十年代までは水田で、砂丘部だけが畑となっていた。

平成七（一九九五）年、県道の建設計画に伴う遺跡の確認調査を新潟市教育委員会が行い、遺跡が東側の水田面下にも広がっていることが分かった。翌八年、道路敷の約二六〇〇平方メートルが発掘調査され、現在、発掘地は主要地方道新潟・亀田・内野線になっている。遺跡の推定範囲は東西約三五〇メートル、南北約一〇〇メートルで、発掘地はその東端に当たる。

発掘調査では、石動遺跡から弥生時代の遺物が初めて出土した。出土量は多くなかったが、様々な土器があった。弥生中期に北陸を中心に見られる小松式土器、東北南部の山草荷式土器、東北北部日本海側の宇津ノ台式土器、弥生後期に東北南部を中心に見られる天

王山式土器、中部高地の栗林式土器である。土器の形は、煮炊きに使われる甕、貯蔵に使われる壺がほとんどであった。また、土器のかけらを円盤状に削った、使途不明のものが四点あった。石鏃は三二点、石錐は一点であった。これらの遺物と、出土地が砂丘の縁であったことから、発掘地は弥生時代の集落の端であり、人々は狩猟をしていたと推定される。水田農耕に関する遺物、住居跡などの遺構は発見されておらず、長期にわたる定住集落であったか否かは、不明である。

亀田郷では、これまで、亀田砂丘から海岸寄りの地域には、弥生時代遺跡が発見されていなかった。この調査で、弥生時代の人々の亀田郷での活動の広がりが、より明らかになった。今後、石山砂丘で新たな弥生遺跡が発見されるかもしれない。

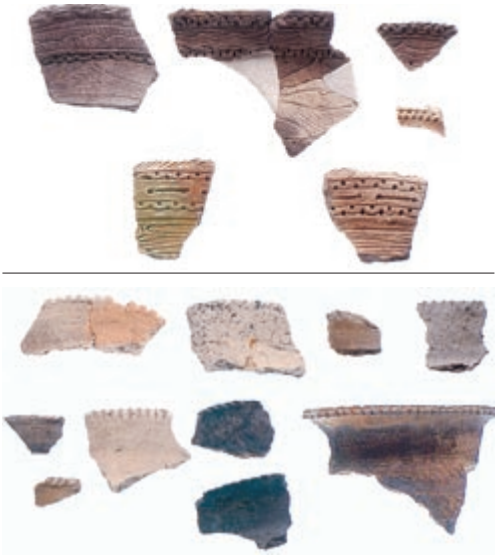

図171　上,東北系土器　下,北陸系土器

図172　円盤状にされた土器片　左端の直径4.8センチメートル